



目次

生産現場情報：	山間地でも若者が夢を抱く農業生産を！ ～農事組合法人あきのみや～	P 1～3
ご 紹 介：	「椎茸生産販売情報交換会・令和5年度40億円必達会議」を開催しました	P 4
	令和4年産新米「初出荷セレモニー」を開催	P 5
	「共同購入トラクターSL33L」を県内3高校へ寄贈	P 6
	「わくわくモーモースクール」 in 由利本荘市西目小学校	P 7
	壇蜜さんらが収穫作業	P 8
	～10月29日本格デビューの秋田米新品種「サキホコレ」～	
	令和4年産『秋田県産しいたけ・長ねぎ』のトップセールス	P 9

山間地でも若者が夢を抱く農業生産を！ ～農事組合法人あきのみや～

1. 設立の背景

平成19年に品目横断的経営安定対策が今後の農政の大きな潮流になると考え、共同での水稻防除を目的とする「上入会営農組合」を発足し、3年後の平成22年には地域農業を守るという使命感から、発起人を中心とした努力が実り、参加農家22戸で「農事組合法人あきのみや」を設立し、農作業全般の受託を開始しました。

設 立：平成22年5月1日
代 表：栄喜養一
構成戸数：22戸
所在地：秋田県湯沢市秋ノ宮字山岸8番地



栄喜養一代表

2. 経営の概要

(1) 事業

農産物の生産・販売、農作業の受託（水稻・大豆）

(2) 経営内容（令和4年4月1日時点）

栽培作目：水稻46ha、大豆47ha、小ギク1.8ha、
セリ0.2ha、いちご0.3ha、白小豆0.4ha、
キャベツ0.2ha

3. 経営の特徴

【水稻】

山間地ならではの小規模で不整地な圃場が多く、圃場数は160を超えており、消雪が遅いため春作業適期も短いという地域性もあるため、圃場での作業効率や農業機械の移動時間等を綿密に試算して作業計画を作成し、圃場管理や刈り取り適期実施に努めています。主食用の「あきたこまち」のほか、酒米である「美山錦」の生産にも取り組むなど需要を見据えた米生産を実践しています。令和3年3月には経営規模拡大に伴い、ライスセンターを建設しました。これにより、これまで以上に安全・安心な高品質の供給に取り組んでいます。



【大豆】

大豆も水稲同様に小規模圃場が多く、こうした不利な条件を克服するため、耕起・播種から収穫まで一貫した機械化体系を構築することで、作業時間の大幅な短縮と省力化を実現しています。更なる効率化を追求し、技術研鑽の機会を設けオペレーターの育成にも取り組んでいます。

【小ギク】

山間地特有の気温の日較差を生かした高収益作物として選定しました。平成30年に園芸メガ団地事業等により出荷調製や定植作業等の機械を導入し、令和元年度に8～9月出荷の作型による栽培を開始しています。



小ギクの圃場



小ギクの選花作業

【白小豆】

「とらやの羊羹」のブランドで知られる（株）虎屋との白小豆の契約栽培に取り組んでいます。高品質な白小豆を生産しているという自信や、新たな市場開拓を追求する姿勢が、法人の成長に繋がっていると感じているそうです。ネームバリューのある実需者との取引は、地域全体の農産物等をPRする格好の機会となっているだけでなく、市場を調査し生産に還元するマーケットインの意識の醸成にも繋がっています。栄喜代表は秋田県の契約栽培協議会の会長を務めています。

【いちご・セリ】

周年販売の実践として、春期はイチゴを作付し、当地域の冷涼な気候を最大限に活用し、露地栽培に加え雨よけハウス栽培も取り入れています。半世紀に渡って産地形成に取り組み「秋の宮いちご」としてブランドが確立されています。

冬期はセリを作付し、当地域の強みである豊富な湧水を利用して初冬以降の水温を一定に維持することで、生産量こそ「三関せり」には及びませんが、優れた食味で高い市場評価を獲得しています。



セリの洗浄作業

【ふるさと秋田農林水産大賞・農林水産大臣賞を受賞】

令和３年度、地域農業経営のモデルとして優れた取り組みを実践し、実績を上げているということから、「ふるさと秋田農林水産大賞」と「農林水産大臣賞」を受賞しました。



4. 今後に向けて

法人の活動に当たり、収益性を経営体存続の要素としながらも、「地域農業を衰退させない」ことを基本理念とし、地域経済・地域社会への貢献といった公益性を一貫して意識しているそうです。

当法人は耕作放棄地の受け皿として、中山間地域に位置する当地域に不可欠な存在となっていて、地域農業の衰退を抑制する役割を果たしています。

また、障害者の社会参加にも積極的に取り組んでおり、市内の福祉施設入所者などを雇用し、小菊の下葉欠き等の軽作業を担当してもらっています。

さらに、農業の魅力を次世代に伝えるため、中学生の体験学習や高校生のインターンシップ、現場研修等を積極的に受け入れ、学びの場として心に残る体験を提供しながら、子供達の育成にも力を注いでいます。

「椎茸生産販売情報交換会・令和５年度４０億円必達会議」を開催しました

あきた園芸戦略対策協議会（事務局：ＪＡ全農あきた）は９月３０日、県内ＪＡおよび秋田県、首都圏の主要卸売会社１０社を３年ぶりに参集し、秋田市内のホテルで「椎茸生産販売情報交換会・令和５年度４０億円必達会議」を開催しました。



秋田県産椎茸は、令和元年度から３年度まで３年連続で、京浜地区中央卸売市場への出荷量、販売金額、販売単価で１位を達成している本県青果物を代表する品目であり、消費地から品質について高い評価をいただいています。

今年度、９月２０日現在の販売実績は、数量１，３８９トン（前年対比９８％）、販売金額１３億８，２００万円（同１０１％）と、夏場の数量が伸びませんでした。徐々に持ち直し１０月下旬以降からは出荷の最盛期を迎えます。

会議では、１０月以降の出荷計画や今年３月に改正された原産地表示への対応、販売促進活動・市場情勢などについて活発な意見が出されました。

ＪＡ全農あきたの担当職員は、「今年の３月に原産地表示が改正され、１０月からの施行にあわせて準備してきた。これまで以上に国産椎茸をアピールし、まずは令和４年度において目標の３，５５０トン、販売額３９億円を目指して頑張りたい」と力強く話しました。

令和4年産新米「初出荷セレモニー」を開催

J A全農あきたは10月4日、新米の県外出荷スタートにあわせて秋田市寺内にある精米センターで「令和4年産新米『初出荷セレモニー』」を開催しました。

セレモニーでは、ミスあきたこまちからトラックのドライバーへ花束を贈呈したほか、J A全農あきたの斉藤一志運営委員会会長らによるテープカットを行い、「あきたこまち」12トンを積み関東へ向けて出発するトラックを送り出しました。



令和4年産米は、6月の低温と日照不足、8月の記録的な大雨などの影響で秋田県の作柄は「やや不良」（9月25日現在）が見込まれていますが、生産者の努力により品質は良好、炊き上がりは「粘り」があって「うま味」が凝縮され、自信をもって消費者にお届けできるお米に仕上がっています。J A全農あきたの斉藤会長は「おいしいあきたこまちをどんどん食べてほしい」と話しました。今年も美味しい秋田米を全国の皆様へお届けしますので、ぜひご賞味ください！



「共同購入トラクターSL33L」を県内3高校へ寄贈

10月12日に行われたJA秋田共済連主催の「農業実習用トラクター寄贈式」で、全農が開発した「共同購入トラクター（中型クラス）SL33L」が、農業分野の学科やコースがある秋田県内の3高校へ農業実習用として寄贈されました。

この取り組みは、JA共済連秋田がこれからの農業を担う人材の育成支援として行ったもので、秋田県教育委員会を通して秋田北鷹高校、金足農業高校、増田高校へ「共同購入トラクター」が各校1台贈られました。昨年12月には能代科学技術高校、西目高校、大曲農業高校へ寄贈していて、農業に関連する県内6高校すべてに寄贈したことになります。

秋田市にあるJA全農あきたの農機製品倉庫で行なわれた寄贈式には、各校の校長や生徒、JA代表者やJA共済連秋田の関係者のほか、JA全農あきたからは山中嗣貴副本部長が出席しました。



JA共済連秋田の斉藤一志会長は「様々な実習の場面で活用し、生徒の皆さんに操作経験を通じて技術を習得してもらいたい」とあいさつし、秋田県教育庁高校教育課の佐藤進課長目録を贈呈しました。

式典に出席した各校の代表生徒たちは、早速トラクターの乗り心地や操作方法を確かめていました。各校では農地管理の実習などでトラクターを使用する予定です。

「わくわくモーモースクール」 i n 由利本荘市西目小学校

秋田県牛乳普及協会（事務局：ＪＡ全農あきた）は１０月２１日、由利本荘市の西目小学校で「わくわくモーモースクール」を開催し、５年生３８人が参加しました。

児童たちに普段あまり接することのない牛とのふれあいをとおし、命のぬくもりを感じ、酪農への関心を持ってもらおうと、３年ぶりに開催。今年度は、９月に実施した横手市の増田小学校に引き続き、今回の西目小学校の計２回開催しました。



講師は、酪農家 農事組合法人新林牧場の柴田睦さんと瑞穂さん。柴田さんは乳牛と山羊を１頭ずつ連れて訪れ、児童たちを出迎えました。児童たちは指導を受けながら一人ずつ慣れない手つきで搾乳を体験したほか、クイズ形式で牛の生態を学びました。搾乳体験をした児童は「むずかしかったけれど、牛のことを考えて優しく乳しぼりができた」と話しました。また、牛をじっくり観察しながら筆ペンでのスケッチ体験や聴診器を使って牛や山羊の心拍音を確かめてふれあいを楽しんでいました。柴田さんは、「牛乳をたくさん搾るので、たくさん飲んでください」と話しました。



壇蜜さんらが収穫作業

～ 10月29日本格デビューの秋田米新品種「サキホコレ」～

10月29日に満を持して本格デビューした秋田米新品種「サキホコレ」。9月29日には、佐竹敬久秋田県知事や「サキホコレ」のイメージキャラクターを務めるタレントの壇蜜さん、ご当地ヒーローの超人ネイガーらがにかほ市の圃場で「サキホコレ」の収穫作業を行いました。



つなぎ姿の壇蜜さんが鎌を使って黄金色に輝く「サキホコレ」の稲穂を刈り取り、「刈り取る時のザクっという音がたまらない。シンプルにおいしいので時間をかけて定着してほしい」とPRしました。稲刈り後には、壇蜜さんが箸と茶碗を手にした「サキホコレ」のポスターもお披露目されました。秋田県によると令和4年産「サキホコレ」の生産量は約4,000トンを見込んでおり、10月29日から県内外の小売店で販売がスタートしています！



令和4年産『秋田県産しいたけ・長ねぎ』のトップセールス

あきた園芸戦略対策協議会（事務局：JA全農あきた）は10月12日、東京都中央卸売市場大田市場で「令和4年産『秋田県産しいたけ・長ねぎ』トップセールス」を開催し、大田市場の仲卸業者や量販店の担当者に向けてPRしました。



秋田県産しいたけ、長ねぎの出荷最盛期を迎え、あきた園芸戦略対策協議会小原正彦会長はあいさつの中で、「コロナ禍の影響で3年振りの開催となったが、秋田県産のしいたけ・長ねぎは生産量も拡大していて、品質面で高い評価を得ている。これからは鍋の季節でもあり、どんどん売り込んでいただきたい。」と話しました。市場内には県内5JAのしいたけ、7JAの長ネギを展示したほか、菌床からしいたけを栽培できるキット「おうちしいたけ」を展示するなどしPRしました。

Za・あぐりふおーむ
Zennoh-akita agriculture+reform

JA全農あきた営農情報誌 **Za・あぐりふおーむ**
第33号 令和5年11月7日発行

編集・発行 JA全農あきた営農支援部営農支援課 〒010-8558秋田市八橋南2丁目10番16号 018-864-2462